

んならん様な云ひようだが」若空に鶴が飛んで居つた」△「へー……」○「又返事をしなはる」△「そ
ないに云ひなはるけど、返事をせんならん様になつて來ますがな」○「返事をする奴がおますかいな」
若「龜の心に見れば私にも翼があればあの様に飛べるものを」△「へい……」○「又返事をしなは
る」若「石の上で龜が地團太を踏みよつたんぢや、それは石龜の地團太ぢや、分つたか」○「ハツ判り
ました」若「判つたら笑はんか」○「笑へと云つて此な事面白いことも何もあらへん」△「何ないなと
して笑ひなはれ、一寸くすぐり合なして……」○「面白くもないものを無理に笑へと云つても笑へ
ますかいな」△「笑はなんたらゴテだつせ」○「チョツとも可笑いことはない……若「コレ、予に落語
をさせて置きながら笑はんか、愈よ笑はんとあれば此の鐵扇を以つて打つぞ」△「サア、鐵扇の出ん
先に笑ひなはれ」○「オイ〜誰や、拙者の脇の下へ手を入れたりするのはくすぐつたら不可ん〜
ウフウフワツハ……」若「ア、予の落語が氣に入つたと見える、モウ一ツしてやるぞ」○「ソレ見なは
れ、又彼んた落語を聞かんならん……」若「茄子が居よつたんぢや」△「へい……」○「モシ、拙者は
殿様の落語より貴方の返事の方が氣になります」若「そこへ蟹が來よつたんぢや」△「へい……」○
「何ぞ其の返事だけ勘忍しとをくんはなれ」若「蟹が茄子を挟みよつた、茄子は茄子しやる、蟹は蟹
して呉れと云ふ、其所へ布袋和尚が來て、布袋な布袋なと申したぞ判つたか」○「判つてやすかい」
△「判つてやすが」若「判つたら笑はんか」△「笑ひなはれ」○「笑へと云つて可笑しいことも何もな

い」△「そこは又くすぐり合ふて」○「そんな無茶なことをしたら不可ません」若「笑はんとあれば鐵
扇を以つて打つぞ」△「ソレ〜、鐵扇の出ん先に笑ひなはれ」○「拙者ばかりくすぐつたら困る、そ
んな無茶な事をしたら不可ん、ウツワツハ、……」若「予の落語しが餘程氣に入つたと見える、ま
だ〜してやるぞ」○「あんな事を三遍も聞かされたら患わづらひますぞ」若「山があつたんぢや」△「へい」
○「眞實に其の返事だけ勘忍しとおくれやす、貴方の返事が氣になつて叶はん」若「河があつたんぢや」
△「へい〜」○「今度はニツしなはつたな」若「そこへ白酒を賣りに來よつた、それで山河の白酒ぢ
や、判つたか、判つたら笑はんか……」○「判つてます、山があつて河があつて白酒を賣りに來て山河
の白酒で御座居ます」若「サア判つたら笑へ、笑はんと鐵扇を以て……」△「また鐵扇が出てます、笑
ひなはれ」○「チョツとも可笑しいことあらへん、そんなにくすぐつたら不可ん、ウツワツハ、……」
若「愈々氣に入つたな、まだ〜してやるぞ」○「難儀でやすな」若「鶴が居よつたんぢや」○「ハ、ア
今度は鶴ですぞ」若「龜が居よつたんぢや」○「また元の話しに戻つて來ましたな」若「鶴は千年龜萬
年……」○「アツ、違う〜」若「東方朔は九千歳、浦島太郎は八千歳、三浦大助百六ツ、斯程目出度
き折柄に如何なる惡魔が來るとも、此の厄拂ひが引捕へ、西の海へ眞逆様にザブリン……」此の時一
同の家來衆は聲を揃へて。一同「笑ひまへう〜」